

## 色彩特性と物理的特性との関係 V

松崎 俊之<sup>1</sup>

### The Relation between Color Properties and Physical Properties V

Toshiyuki MATSUZAKI\*

\* *Department of Human Culture, Faculty of Human Studies,  
Ishinomaki Senshu University, Ishinomaki 986-8580, Japan*

#### 5 結：本研究の美的特性理論上の意義と今後の展望

以上本論においては、色彩特性と物理的特性はいかなる関係にあるかという問題をめぐって考察をおこなうとともに、あわせて色彩に関する素朴実在論（原初主義）的な理解と色彩に関する関係主義理解は調停可能であるか、もし可能であるとすればそれはいかなる方途によってであるかという点についても考察をおこない、色彩に関するこれら二種の理解を調停するひとつの試みとして最終的に存在依存関係主義理論をあらたに提唱するにいたった。

「序」でも述べたように、色彩特性と物理的特性との関係の解明という本稿の中心課題は、本来知覚的特性一般と物理的特性との関係というより大きな問題地平のもとに位置づけられるものなのであるが、そもそもこの問題地平は、美的特性理論との関連のなかで浮上してきたものであることから（松崎 [2017]: 43）、本稿の最後に、本論をとおして得られた種々の知見を美的特性理論の枠組みのもとに捉え返すことで、それらの知見をもとに美的特性理論のさらなる展開・深化の可能性を探ってみることにしたい。

議論に先立ち最初に確認しておく必要があるのは、本論で考察の対象とした色彩特性と知覚的特性一般との関係についてである。

「序」でも述べたように、本論では色彩特性を知覚的特性のパラダイムケースとして位置づけているとはいえ、考察にあたっての基本方針として、その焦点を色彩のもつ種々の現象的様相のうちとくに「表面色」に絞ったうえで、種々のトップダウン情報処理機制による影響を（可能なかぎり）

排除するとともに、複数の色彩の相互作用から生ずる色彩現象についてはこれを考察の対象としないことを挙げている（松崎 [2017]: 43）。このことから明らかなように、本論では、多様な広がりをもつ色彩現象のうちごく限られた側面にピンポイントで光を投じたに過ぎない。

このように本論における色彩特性に関する考察が、あくまで各種感覚モダリティのなかのひとつにとどまるに過ぎない色覚というモダリティについてさまざまな制約のもとにおこなわれたものである以上、そこで得られた知見をただちに知覚的特性一般に拡張することは、本来厳に慎むべきであろう。しかし以下では、本論をとおして得られた種々の知見をもとに美的特性理論のさらなる展開・深化の可能性を探ることにその適用範囲を限定することを条件に、本論で取り上げた色彩特性を知覚的特性として捉え返すことが可能であるとの作業仮説を設定し、その作業仮説のもとで本論における議論を知覚的特性と物理的特性との関係一般の問題に適用することを試みることにしたい。

さて上記のような作業仮説のもとに本論における議論に依拠して知覚的特性と物理的特性との関係についてあらためて考えてみるならば、「知覚的特性は物理的特性に存在依存する」という基本命題が得られることになる（「厳格存在依存」や「類的存在依存」をはじめとする存在依存の種別に関してはここでは問わない）。

この基本命題を存在依存関係主義理論のもとにさらに分節化するならば、そこから以下の(1)と(2)という二つの命題が得られる。

(1)知覚的特性は関係的特性に存在依存する。

<sup>1</sup>石巻専修大学人間学部人間文化学科

## 色彩特性と物理的特性との関係 V

因みに、知覚的特性が存在依存する関係的特性を【DRP1】をもとに捉えるならば、それは具体的に以下のようなものとなる。

【DRP1\*】関係的特性  $RP^*$  = df 知覚条件  $PC^*$  と知覚システム  $S^*$  を具えた主体との関係において対象  $O$  のもつ特性

(2)関係的特性は物理的特性に存在依存する。

この命題の意味するところをより具体的に示すならば、関係的特性  $RP^*$  は、対象  $O$ 、知覚条件  $PC^*$ 、主体の具える知覚システム  $S^*$  の三者がそれぞれにもつ物理的特性（の集合）からなる総体に存在依存するということになる。

このことを別な角度から捉えるならば、関係的特性  $RP^*$  は、対象  $O$ 、知覚条件  $PC^*$ 、主体の具える知覚システム  $S^*$  の三者がそれぞれにもつ物理的特性（の集合）からなる総体によって実現（realize）されるということの意味する。

「知覚的特性は物理的特性に存在依存する」という基本命題を存在依存関係主義理論をもとに分節化することで導出されたのが上記(1)と(2)の命題なのであるが、存在依存関係は「推移的關係」であることから、上記(1)と(2)の命題から逆に基本命題が帰結することになる。

以上本論における議論をひとつの参照点として知覚的特性と物理的特性との関係について考察をおこなってきたのであるが、つぎに取り上げなければならないのは、一次的美的特性と知覚的特性との関係についてである。

以下ではこの点について、私がこれまで従事してきた美的特性理論に関する研究を振り返りながら、関連するいくつかの論点を確認しておくことにしたい。

本稿「序」にも述べたように、一次的美的特性<sup>(1)</sup>と知覚的特性との関係について松崎 [2010] では「一次的美的特性は知覚的特性と不可分の一如体としてある」という暫定的な理解を示すにとどまったが、その後松崎 [2013] と松崎 [2014] ではこの問題についてさらに考察を深めることで両特性の関係についてあらたな理解を示すことになった。

そこで以下では、松崎 [2013] と松崎 [2014] のそれぞれにおいて一次的美的特性と知覚的特性との関係についていかなる理解が示されている

か、その要点を押さえておくことにする。

まず松崎 [2013] についてであるが、ここでは一次的美的特性と知覚的特性との関係について松崎 [2010] よりもさらに一步踏み込んだかたちでこれを主題的に取り上げ、廣松渉の表情理論をひとつの手掛かりとすることで、そこから「広義での知覚は、狭義での知覚としての認知、美的感受、行動態勢の三契機の融合態としてある」という基本命題を析出し、この基本命題をもとに両特性の関係をあらたに捉え返す試みを示した。

松崎 [2013] をとおして得られた両特性の関係に関する基本的理解を箇条書きに示すならば、それは以下のようになる。

(1)基本命題から帰結する知覚的特性と一次的美的特性との関係に関する理解

①広義での知覚的特性との関係について言えば、一次的美的特性はこの広義での知覚的特性のもとに包摂される。

②狭義での知覚的特性との関係について言えば、一次的美的特性は狭義での知覚的特性と融合相にある。

(2)「同一特性二アスペクト条件」(松崎 [2013]: 112)<sup>(2)</sup>にもとづく知覚的特性と一次的美的特性との関係に関する理解

①広義での知覚的特性と一次的美的特性との関係

広義での知覚的特性は広義での知覚的特性全体のアスペクトとしてあるのに対し、一次的美的特性はこの広義での知覚的特性のもつ部分的アスペクトとしてある。

②狭義での知覚的特性と一次的美的特性との関係  
狭義での知覚的特性と一次的美的特性は、広義での知覚的特性という同一の特性のもつ二つのアスペクトとしてある。

一方松崎 [2014] では、一次的美的特性と知覚的特性との関係について、松崎 [2013] とはまた別の角度からアプローチを試み、イギリスの進化心理学者ニコラス・ハンフリーの感覚と知覚に関する仮説に依拠することで、両特性の関係について進化心理学の観点から検討を加えた。

松崎 [2014] をとおして得られた両特性の関係に関する理解の要点を箇条書きに示すならば、それは以下のようになる<sup>(3)</sup>。

(1)広義での知覚的特性は狭義での知覚的特性と一

次的美的特性との融合体としてある。

(2)広義での知覚的特性と一次的美的特性との関係に関して言えば、広義での知覚的特性が広義での知覚的特性全体のアスペクトであるのに対し、一次的美的特性はこの広義での知覚的特性のもつ部分的アスペクトとしてある。

(3)狭義での知覚的特性と一次的美的特性との関係に関して言えば、両者は広義での知覚的特性という同一特性のもつ二つのアスペクトとしてある。

以上の記述からも明らかなように、松崎 [2013] および松崎 [2014] という二つの論考は、一方が廣松渉の表情理論に依拠するのに対し、他方がハンフリーの進化心理学的上の仮説に依拠するといったように、それぞれそのアプローチを異にするにもかかわらず、少なくとも一次的美的特性と知覚的特性との関係に関する理解については大筋で合致するものと言える。あらためて言うまでもなく、つぎに取り組まなければならないのは、上に確認した一次的美的特性と知覚的特性との関係に関する理解と本論における知覚的特性と物理的特性との関係に関する理解とを総合的に捉えることで、一次的美的特性、知覚的特性、物理的特性という三者の関係を明示し、それによって美的特性理論の基本的枠組みを再構築することにある。

上記の狙いに則して本章におけるこれまでの議論を総括することで、一次的美的特性、知覚的特性、物理的特性の三者の関係についてあらためて考えてみるならば、それは大きく以下の二点にまとめられる。

#### (1)一次的美的特性と知覚的特性との関係

一次的美的特性は狭義での知覚的特性と融合相にあり、両者が一体化することで広義での知覚的特性が形成される。

このことを別の角度から捉えるならば、一次的美的特性と狭義での知覚的特性はそれぞれ広義での知覚的特性という同一特性のもつ二つのアスペクトとしてあるということになる。

#### (2)知覚的特性と物理的特性との関係

ここで最初に確認しておかなければならないのは、物理的特性との関係が問題となる知覚的特性は第一義的には狭義での知覚的特性であるという点である。

しかしながら上記(1)にあるように、狭義での知

覚的特性が一次的美的特性と融合相にあって広義での知覚的特性を形成するとしたならば、物理的特性との関係が問題となる知覚的特性を広義での知覚的特性と理解することも可能となる。

この点を踏まえたとうえで、あらためて知覚的特性と物理的特性との関係を捉えるならば、知覚的特性(狭義での知覚的特性／広義での知覚的特性)は物理的特性に存在依存するということになるが、上にも述べたように存在依存関係主義理論に依拠するならば、両者の存在依存関係はさらに以下の二つの存在依存関係に分節化されることになる。

- ①知覚的特性(狭義での知覚的特性／広義での知覚的特性)は関係的特性に存在依存する。
- ②関係的特性は物理的特性に存在依存する。

\* \* \*

以上、本論で取り上げた色彩特性を知覚的特性として捉え返すことが可能であるとの作業仮説のもとに、本論における議論を知覚的特性と物理的特性との関係一般の問題に適用することで、美的特性理論のさらなる展開・深化の可能性を探ってきたのであるが、それがひとつの作業仮説にもとづくものであるかぎりにおいて、上に示した考察はそれ自身が仮説の域を出るものでは断じてないと言わなければならない。

こうした問題状況下で第一に必要とされるのは、あらためて言うまでもなく、上記作業仮説の検証ということになるが、それを遂行するには以下に列挙した一連の課題を果たすことが必須の要件となる。

#### (1)色彩知覚に関する考察範囲の拡張

##### ①考察対象とする色彩現象の拡張

本稿では多種多様な色彩現象のうちとくに「表面色 (surface color)」にその考察の焦点を絞ったのであるが、その考察範囲を広げ、「光源色 (light-source color)」<sup>(4)</sup>、「透過色 (transparent color)」<sup>(5)</sup>、「開口色 (aperture color)」<sup>(6)</sup>等、他の色彩現象をもあわせて考察対象とすることで、これらの色彩現象をもとに色彩知覚特性についてさらに理解を深める。

##### ②種々のトップダウン情報処理機制を含む色彩知

覚一般のメカニズムの解明

トップダウン情報処理が関与する色彩現象としては、たとえば「(各種) 色彩残像 (after image of color)」、「色の恒常性 (color constancy)」、「色彩対比 (color contrast)」（とくに対比的場面での色彩の見え方)、「色彩同化 (color assimilation)」といったものが挙げられるが<sup>(7)</sup>、これらの色彩現象をもとに色彩知覚特性についてさらに考察を深める。

### (2) 視知覚に関する考察範囲の拡張

あらためて言うまでもなく色彩知覚もまた視知覚の一種に数えられるものであるが、その考察範囲を拡大し、色彩知覚以外の視知覚、たとえば形態知覚、運動知覚等も考察対象とすることで、視知覚的特性に関してより広い視座から考察をおこなう<sup>(8)</sup>。

### (3) 音知覚に関する考察

各種知覚モダリティのうち視知覚に加え音知覚もその考察対象とすることで、とくに視知覚的特性との対比において音知覚的特性について考察をおこなう。

知覚に関する考察範囲を視知覚から他の知覚モダリティに拡張するにあたって音知覚を他の知覚モダリティよりも優先したその主たる理由は、音知覚は視知覚とならんで藝術鑑賞にとって特権的な地位を占める知覚モダリティであることによる<sup>(9)</sup>。

あらためて言うまでもなく、上に記した一連の課題を順を追ってひとつずつ着実に遂行してゆくなかで知覚的特性一般に関する理解を深め、そこから得られた種々の知見に依拠してあらためて知覚的特性一般と物理的特性との関係について考察をおこない、それをもとに両特性と美的特性との関係について総合的な視点から検討を加えることで美的特性理論のさらなる展開・深化を図ることこそ、われわれが目指すべきつぎなる目標に他ならないということになる。

## 註

(1) 一次的美的特性 (the first-order aesthetic properties) とは、高階美的特性 (the higher-order aesthetic properties) との対比において捉えられた、対象のもつ非美的特性を基盤として、そこから直接的に創発する美

的特性を意味するが、この一時的美的特性について詳しくは松崎 [2010]: 19-24 を参照されたい。

(2) 松崎 [2013] で呈示された「同一特性二アスペクト条件」は、あくまで特性のもつ外延的同一性に依拠する暫定的な試案にとどまるものであった。したがってこの「同一特性二アスペクト条件」をもとに知覚的特性と一次的美的特性との関係についてさらに考察を推し進めるためには、まずは、特性同一性に関する内包論理学上の議論を参照することで、この「同一特性二アスペクト条件」をあらたに鍛え直すことが必須の要件となる。

(3) ここでは松崎 [2014] に示された一次的美的特性と知覚的特性との関係に関する理解の要点を記すにとどめる。その全容については松崎 [2014]: 74-7 を参照されたい。

(4) 「光源色 (light-source color)」とは文字通り「光源が反射する光の色」(日本色彩学会編 [1998]: 67) を意味する。see also 千々岩 [2001]: 11-2.

(5) 「透過色 (transparent color)」は、「表面色 (surface color)」と並んで「物体色 (non-luminous object color)」のひとつに数えられるものであるが、「透過色」とは、たとえばステンドグラスやスライドフィルムのような透明な物体の具える色彩を意味する。see 千々岩 [2001]: 12.

(6) 「開口色 (aperture color)」とは「[たとえば表面色を小さな穴をとおして見る場合のように] 色刺激を発する物体がなんであるかという認識を妨げるような条件下で観察する色刺激の色」(日本色彩学会編 [1998]: 69) を意味する。

(7) ここに挙げたトップダウン情報処理が関与するこれらの色彩現象について詳しくは、千々岩 [2001]: 108-10, 116-7, 123-8, 日本色彩学会編 [2011]: 472-8, 大山他 [1994]: 476-84, 486-98 を参照されたい。

(8) 形態知覚および運動知覚に関しては、それぞれ大山他 [1994]: 606-658, 802-844 を参照されたい。

(9) 筆者は、知覚的特性としてあらたに音知覚特性をその研究対象に加え、音をめぐって音知覚特性と音に関する美的特性との関係について考察をおこない、その成果の一端を「音の知覚と音の美的感受—音響美学序説」という論題のもとに学会で発表した(東北芸術文化学会第26回大会、2020年8月2日〔オンライン方式で実施〕)。

## 参考文献

本論攷を締めくくるにあたり、ここでは本論攷 I から V において参照したすべての文献を掲載することにす

- る。
- Allen, Keith. [2012]. "Colour Relationalism, Contextualism, and Self-Locating Contents." *Croatian Journal of Philosophy* 36: 331-50.
- . [2016]. *A Naïve Realist Theory of Colour*. Oxford: Oxford University Press.
- Armstrong, David. [2010]. "Relations." Chapter 3 of his *Sketch for a Systematic Metaphysics*. Oxford: Oxford University Press, pp.22-5.
- Averill, Edward W. [2005]. "Toward a Projectivist Account of Color." *Journal of Philosophy* 102 (5): 217-34.
- Bedau, Mark. [1997]. "Weak Emergence." *Philosophical Perspectives 11: Mind, Causation, and World*. Oxford: Blackwell, pp.375-99.
- Bickle, John. [2016]. "Multiple Realizability." *The Stanford Encyclopedia of Philosophy* (Spring 2016 Edition). Edited by Edward N. Zalta. URL=<<https://plato.stanford.edu/archives/spr2016/entries/multiple-realizability/>>.
- Boghossian, P. A. and Velleman, J. D. [1997]. "Colour as a Secondary Quality." *Mind* 98 (1989) : 81-103. Reissued in: Byrne and Hilbert [1997]: 81-104.
- BonJour, Laurence and Lyons, Jack. [2013]. "Epistemological Problems of Perception." *The Stanford Encyclopedia of Philosophy* (Spring 2013 Edition). Edited by Edward N. Zalta. URL= <<http://plato.stanford.edu/archives/spr2013/entries/perception-episprob/>>.
- Brent, P.J., Kennard, C., Ruddock, K.H. [1994]. "Residual Colour Vision in a Human Hemianope: Spectral Responses and Colour Discrimination." *Proceedings of the Royal Society of London: Biological Sciences* 256 (1347): 219-25.
- Brower, Jeffrey. [2014]. "Medieval Theories of Relations." *The Stanford Encyclopedia of Philosophy* (Spring 2014 Edition) . Edited by Edward N. Zalta. URL= <<http://plato.stanford.edu/archives/spr2014/entries/relations-medieval/>>.
- . [2016]. "Aristotelian vs. Contemporary Perspectives on Relations." Anna Marmodoro and David Yates (eds.). *The Metaphysics of Relations* . Oxford: Oxford University Press, 36-54.
- Byrne, A. and Hilbert, D. R. [1997]. *Readings on Color. Vol. 1: The Philosophy of Color*. Cambridge / London: MIT Press.
- . [2003]. "Color Realism and Color Science." *Behavioral and Brain Sciences* 26: 3-63.
- Campbell, John. [1993]. "A Simple View of Color." J. Haldane and C. Wright (eds.) . *Reality, Representation and Projection*. Oxford: Clarendon Press, pp.257-69.
- Chalmers, David J. [2006]. "Strong and Weak Emergence." P. Clayton and P. Davies (eds.) . *The Re-Emergence of Emergence*. Oxford: Oxford University Press. URL=<<http://consc.net/papers/emergence/pdf>>.
- Choi, Sungho and Fara, Michael. [2014]. "Dispositions." *The Stanford Encyclopedia of Philosophy* (Spring 2014 Edition). Edited by Edward N. Zalta. URL=<<http://plato.stanford.edu/archives/spr2014/entries/dispositions/>>.
- Cohen, Jonathan. [2009]. *The Red and Real: An Essay on Color Ontology*. Oxford / New York: Oxford University Press.
- Correia, Fabrice. [2005] . *Existential Dependence and Cognate Notions*. München: Philosophia Verlag.
- . [2008]. "Ontological Dependence." *Philosophy Compass* 3(5): 1013-32.
- Crane, Tim and French, Craig. [2016]. "The Problem of Perception." *The Stanford Encyclopedia of Philosophy* (Spring 2016 Edition). Edited by Edward N. Zalta. forthcoming URL= <<http://plato.stanford.edu/archives/spr2016/entries/perception-problem/>>.
- Fine, Kit. [1995]. "Ontological Dependence." *Proceedings of Aristotelian Society. New Series* 95: 269-90.
- Finlayson, Graham D. and Morović, Peter M. [2000]. "Crossover Wavelengths of Natural Metamers." *Proceedings of Colour 2000 Conference*, Derby, UK. URL=<[http://www2.cmp.uea.ac.uk/Research/compvis/Papers/FinMor\\_COL00.pdf](http://www2.cmp.uea.ac.uk/Research/compvis/Papers/FinMor_COL00.pdf)>.
- Gert, Joshua. [2006]. "A Realistic Color Realism." *Australasian Journal of Philosophy* 84: 565-89.
- Hacker, Peter M. S. [1987]. *Appearance and Reality*. Oxford: Blackwell Publisher.
- Hardin, Clyde L. [1988/1993]. *Color for Philosophers*. Indianapolis: Hackett.
- Heil, John. [2009]. "Relations." Robin Le Poidevin, Peter Simons, Andrew McGonigal and Ross P. Cameron

- (eds.). *The Routledge Companion to Metaphysics*. London / New York: Routledge, pp.310-21.
- Hoeltje, Miguel, Schnieder, Benjamin and Steinberg, Alex (eds.). [2013]. *Varieties of Dependence: Ontological Dependence, Grounding, Supervenience, Response-Dependence*. München: Philosophia Verlag.
- Huemer, Michael. [2011]. "Sense-Data." *The Stanford Encyclopedia of Philosophy* (Spring 2011 Edition). Edited by Edward N. Zalta. URL=<<http://plato.stanford.edu/archives/spr2011/entries/sense-data/>>.
- Kim, Jaegwon. [1993]. "Concepts of Supervenience." Chapter 4 of his *Supervenience and Mind*. Cambridge: Cambridge University Press, pp.53-78.
- Koslicki, Kathrin. [2013]. "Ontological Dependence: An Optionated Survey". In: Hoeltje, Schnieder and Steinberg [2013]: 31-64.
- Lemmon, Edward J. [1965]. *Beginning Logic*. London: Chapman & Hall (E. J. レモン『論理学初歩』竹尾治一郎、浅野楯英訳、世界思想社、1973年) .
- Leuenberger, Stephen. [2008]. "Supervenience in Metaphysics." *Philosophy Compass* 3 (4): 749-62.
- Locke, John. [1853]. *An Essay concerning Human Understanding*. 31st rev. ed. London: William Tegg. 1st published in 1689.
- Lowe, E. Jonathan. [1998]. *The Possibility of Metaphysics: Substance, Identity, and Time*. Oxford: Clarendon Press.
- . [2012]. "Ontological Dependence." *The Stanford Encyclopedia of Philosophy* (Spring 2010 Edition). Edited by Edward N. Zalta. URL=<<http://plato.stanford.edu/entries/dependence-ontological/>>.
- MacBride, Fraser. [2016]. "Relations." *The Stanford Encyclopedia of Philosophy* (Spring 2016 Edition). Edited by Edward N. Zalta. URL=<<http://plato.stanford.edu/archives/spr2016/entries/relations/>>.
- Mackie, John Leslie. [1990]. *Ethics: Inventing Right and Wrong*. First published in Pelican Books 1977. London: Penguin Books (J. L. マッキー『倫理学—道徳を創造する』加藤尚武監訳、哲書房、1990年) .
- Maud, Barry. [2012]. "Color." *The Stanford Encyclopedia of Philosophy* (Winter 2012 Edition). Edited by Edward N. Zalta. URL=<<http://plato.stanford.edu/archives/win2012/entries/color/>>.
- Maurin, Anna-Sofia. [2014]. "Tropes." *The Stanford Encyclopedia of Philosophy* (Fall 2014 Edition). Edited by Edward N. Zalta. URL=<<http://plato.stanford.edu/archives/fall2014/entries/tropes/>>.
- McGinn, C. [1983]. *The Subjective View*. Oxford: Clarendon Press.
- . [1996]. "Another Look at Color." *The Journal of Philosophy* 93: 537-55.
- . [2000]. "Secondary Qualities." Edward Craig (ed.). *Routledge Encyclopedia of Philosophy*. London: Routledge, pp.595-9.
- McLaughlin, Brian. [1997]. "Emergence and Supervenience." *Intellectica*. 2 (25): 25-43.
- McLaughlin, Brian and Bennett, Karen. [2011]. "Supervenience." *The Stanford Encyclopedia of Philosophy* (Spring 2014 Edition). Edited by Edward N. Zalta. URL=<<http://plato.stanford.edu/archives/spr2014/entries/supervenience/>>.
- Ney, Alyssa. [2016]. "Reductionism." James Fieser and Bradley Dowden (general eds.). *The Internet Encyclopedia of Philosophy*. ISSN 2161-0002, URL=<<http://www.iep.utm.edu/red-ism/>> (accessed September 3, 2016).
- O'Connor, Timmony and Wong, Hong Yu. [2012]. "Emergent Properties." *The Stanford Encyclopedia of Philosophy* (Spring 2012 ed.). Edited by Edward N. Zalta. URL=<<http://plato.stanford.edu/entries/properties-emergent/>>.
- Pautz, Adam. [2006b]. "Color Eliminativism." Ms., University of Texas, Austin.
- Sanford, David H. [2014]. "Determinates vs. Determinables." *The Stanford Encyclopedia of Philosophy* (Winter 2014 Edition). Edited by Edward N. Zalta. URL=<<http://plato.stanford.edu/archives/win2014/entries/determinate-determinables/>>.
- Simons, Peter. [1987]. *Parts: A Study in Ontology*. Oxford: Oxford University Press.
- Soteriou, Matthew. [2014]. "The Disjunctive Theory of Perception." *The Stanford Encyclopedia of Philosophy* (Summer 2014 Edition). Edited by Edward N. Zalta. URL=<<http://plato.stanford.edu/archives/sum2014/entries/perception-disjunctive/>>.
- Steinberg, Alex. [2013]. "Supervenience: A Survey." In: Hoeltje, Schnieder and Steinberg [2013]: 123-66.
- Swoyer, Chris and Orilia, Francesco. [2011]. "Prop-

- erties.” *The Stanford Encyclopedia of Philosophy* (Fall 2014 Edition). Edited by Edward N. Zalta. URL= < http://plato.stanford.edu/archives/fall2014/entries/properties/>.
- Tahko, Tuomas E. [2015]. “Grounding and Ontological Dependence.” Chapter 5 of his *An Introduction to Metametaphysics*. Cambridge: Cambridge University Press, pp.93-119.
- Tahko, Tuomas E. and Lowe, E. Jonathan. [2015]. “Ontological Dependence.” *The Stanford Encyclopedia of Philosophy* (Spring 2015 Edition). Edited by Edward N. Zalta. URL=<http://plato.stanford.edu/archives/spr2015/entries/dependence-ontological/>.
- Trettin, Käthe. [2007]. “Tropes and Relations.” *The Proceedings of the Twenty-First World Congress of Philosophy* 12: 155-9.
- Tye, Michael. [1995]. *Ten Problem of Consciousness: A Representational Theory of the Phenomenal Mind*. Cambridge, MA: MIT Press.
- . [2015]. “Qualia.” *The Stanford Encyclopedia of Philosophy* (Fall 2015 Edition). Edited by Edward N. Zalta. URL= < http://plato.stanford.edu/archives/fall2015/entries/qualia/>.
- Van Riel, Raphael and Van Gulick, Robert. [2014]. “Scientific Reduction.” *The Stanford Encyclopedia of Philosophy* (Summer 2014 Edition). Edited by Edward N. Zalta. URL=<http://plato.stanford.edu/archives/sum2014/entries/scientific-reduction/>.
- Watkins, M. [2005]. “Seeing Red: the Metaphysics of Colour Without the Physics.” *Australasian Journal of Philosophy* 83(1): 33-52.
- Weatherston, Brian and Marshall, Dan. [2012]. “Intrinsic vs. Extrinsic Properties.” *The Stanford Encyclopedia of Philosophy* (Fall 2014 Edition). Edited by Edward N. Zalta. URL=<http://plato.stanford.edu/archives/fall2014/entries/intrinsic-extrinsic/>.
- Wetzel, Linda. [2006]. “Types and Tokens.” *The Stanford Encyclopedia of Philosophy* (Spring 2014 Edition). Edited by Edward N. Zalta. URL=<http://plato.stanford.edu/archives/spr2014/entries/types-tokens/>.
- Wilson, Jessica. [2017]. “Determinables and Determinates.” *The Stanford Encyclopedia of Philosophy* (Spring 2017 Edition). Edited by Edward N. Zalta. URL=<https://plato.stanford.edu/archives/spr2017/entries/determinate-determinables/>.
- 内川惠二. [1998]. 『色覚のメカニズム－色を見る仕組み』朝倉書店。
- 大山正、今井省吾、和気典二編. [1994]. 『新編 感覚・知覚心理学ハンドブック』誠信書房。
- 小松英彦. [2015]. 「色選択性細胞」、林康紀編『脳科学辞典』URL=< http://bsd.neuroinf.jp/wiki/%E8%89%B2%E9%81%B8%E6%8A%9E%E6%80%A7%E7%B4%B0%E8%83%9E >。
- 齋藤勝裕. [2010]. 『光と色彩の科学－発色の原理から色の見える仕組みまで』講談社。
- 鈴木生郎、秋葉剛史、谷川卓、倉田剛. 『現代形而上学－分析哲学が問う、人・因果・存在の謎』新曜社、2014年。
- 城一夫編. [2009]. 『徹底図解 色のしくみ』新星出版社。
- 千々岩英彰. [2001]. 『色彩学概論』東京大学出版会。
- 日本色彩学会編. [1998]. 『新編 色彩科学ハンドブック』第2版、東京大学出版会。
- . [2011]. 『新編 色彩科学ハンドブック』第3版、東京大学出版会。
- フィッシュ、ウィリアム. [2014]. 『知覚の哲学入門』山田圭一監訳（原著2010年）、勁草書房。
- 不破正宏. [1986]. 「視覚受容の生理学的メカニズム」、『光学』第15巻第5号、376-81頁。
- 松崎俊之. [2010]. 「美的特性に関する階層構造理論」、『芸術文化』第15号、11-32頁。
- . [2011]. 「美的特性に関する傾性理論－その美的特性実在論としての可能性を探る」、『石巻専修大学研究紀要』第22号、109-23頁。
- . [2013]. 「知覚的特性と美的特性との関係に関する一考察」、『石巻専修大学 研究紀要』第24号、105-25頁。
- . [2014]. 「知覚的特性、感覚的特性、美的特性－N. ハンフリーの進化心理学的仮説に依拠して」、『芸術文化』第19号、69-87頁。
- . [2017]. 「色彩特性と物理的特性との関係Ⅰ」、『石巻専修大学 研究紀要』第28号、43-54頁。
- . [2018]. 「色彩特性と物理的特性との関係Ⅱ」、『石巻専修大学 研究紀要』第29号、59-72頁。
- . [2019]. 「色彩特性と物理的特性との関係Ⅲ」、『石巻専修大学 研究紀要』第30号、61-73頁。
- 松本俊吉. [2001]. 「「創発性」について」、『科学基礎論研究』28巻2号、79-85頁。

松山オジョス武、七田芳則. [2013].「ロドプシン」、林康紀編『脳科学辞典』。URL=< http://bsd.neuroinf.jp/wiki/%E3%83%AD%E3%83%89%E3%83%97%E3%82%B7%E3%83%B3 >。

山中俊夫. [1997].『色彩学の基礎』文化書房博文社。

## 【付録】色彩哲学に関する各種定式

本論攷を締めくくるにあたり、一種の付録(appendix)として、本論攷 I から V において呈示した、色彩哲学に直接・間接に関わる主要な諸定式を一覧のかたちで示すことで、読者の便を図ることにしたい。

### I 傾性理論 (Dispositional Theory = DT) に関する定式

(1) 傾性 (disposition) の定義 (DD=Definition of Disposition)

【DD】 傾性 D = df 色彩知覚条件 PC のもとで色彩知覚システム S を具えた主体に対して色彩 C と直接的に関連づけられる (たとえば「C に見える」、「C に感じられる」) ような感覚反応 SR を引き起こす対象 O のもつ特性

(2) 傾性理論にもとづく色彩の定義 1 (DCDT1=Definition of Color based on the Dispositional Theory 1)

【DCDT1】 色彩 C = df. 正常な知覚者 NP に対して正常な諸条件 NC のもとである対象 O がその色彩 C を帯びるといふ経験を引き起こすその対象 O もつ傾性 D

(3) 傾性理論にもとづく色彩の定義 2 (DCDT2=Definition of Color based on the Dispositional Theory 2)

【DCDT2】 色彩 C = df 色彩知覚条件 PC のもとで色彩知覚システム S を具えた主体に対して色彩 C と直接的に関連づけられる (たとえば「C に見える」、「C に感じられる」) ような感覚反応 SR を引き起こす対象 O のもつ傾性 D

(4) DCDT2 にもとづく赤の定義 (DRDT=Definition of Red based on the Dispositional Theory)

【DRDT】 赤 = df 色彩知覚条件 PC のもとで色彩知覚システム S を具えた主体に対して赤と直接

的に関連づけられる (たとえば「赤く見える」、「赤く感じられる」) ような感覚反応 SR を引き起こす対象 O のもつ傾性 D

### II 関係主義理論 (Relationalist Theory = RT) に関する定式

(1) 関係的特性の定義 1 (DRP1=Definition of Relational Property 1)

【DRP1】 関係的特性 RP = df 色彩知覚条件 PC と色彩知覚システム S を具えた主体との関係において対象 O のもつ特性

(2) 関係的特性の定義 1\* (DRP1\*=Definition of Relational Property 1\*)

【DRP1\*】 関係的特性 RP\* = df 知覚条件 PC\* と知覚システム S\* を具えた主体との関係において対象 O のもつ特性

(3) 関係的特性の定義 2 (DRP=Definition of Relational Property 2)

【DRP2】 関係的特性 RP = df 色彩知覚条件 PC のもとで色彩知覚システム S を具えた主体に対して色彩 C と直接的に関連づけられる (たとえば「C に見える」、「C に感じられる」) ような感覚反応 SR を引き起こす対象 O のもつ特性

(4) 関係主義理論にもとづく色彩の定義 1 (DCRT1=Definition of Color based on the Relationalist Theory 1)

【DCRT1】 色彩 C = df 色彩知覚条件 PC のもとである色彩知覚システム S を具えた主体が対象 O を色彩知覚する (対象 O の色彩を知覚する) 際に、その対象 O が色彩知覚条件 PC および色彩知覚システム S との関係においてもつ関係的特性 RP

(5) 関係主義理論にもとづく色彩の定義 2 (DCRT2=Definition of Color based on the Relationalist Theory 2)

【DCRT2】 色彩 C = df 色彩知覚条件 PC のもとで色彩知覚システム S を具えた主体に対して色彩 C と直接的に関連づけられる (たとえば「C に見える」、「C に感じられる」) ような感覚反応 SR を引き起こす対象 O のもつ関係的特性 RP

(6) DCRT2 にもとづく赤の定義 (DRRT=Definition of Red based on the Relationalist Theory)

【DRRT】赤 = df 色彩知覚条件 PC のもとで色彩知覚システム S を具えた主体に対して赤と直接的に関連づけられる (たとえば「赤く見える」、「赤く感じられる」) ような感覚反応 SR を引き起こす対象 O のもつ関係的特性 RP

【DREDRT】赤 = df 色彩知覚条件 PC のもとで色彩知覚システム S を具えた主体に対して赤と直接的に関連づけられる (たとえば「赤く見える」、「赤く感じられる」) ような感覚反応 SR を引き起こす対象 O のもつ関係的特性 RP に厳格に存在依存する対象 O のもつ原初的特性 PP

### Ⅲ スーパーヴィーニエンス傾性理論 (Supervenience Dispositional Theory = SDT) に関する定式

#### 【記号表記一覧】

C = Color  
D = Disposition  
NC = Normal Conditions  
NP = Normal Perceiver  
O = Object  
PC = Perceptual Conditions  
PP = Primitive Property  
RP = Relational Property  
S = System  
SR = Sensational Response

(1) スーパーヴィーニエンス傾性理論にもとづく色彩の定義 (DCSDT=Definition of Color based on the Supervenience Dispositional Theory)

【DCSDT】色彩 C = df 色彩知覚条件 PC のもとで色彩知覚システム S を具えた主体に対して色彩 C と直接的に関連づけられる (たとえば「C に見える」、「C に感じられる」) ような感覚反応 SR を引き起こす対象 O のもつ傾性 D にスーパーヴィーンする対象 O のもつ原初的特性 PP

(2) DCSDT にもとづく赤の定義 (DRSDT=Definition of Red based on the Supervenience Dispositional Theory)

【DRSDT】赤 = df 色彩知覚条件 PC のもとで色彩知覚システム S を具えた主体に対して赤と直接的に関連づけられる (たとえば「赤く見える」、「赤く感じられる」) ような感覚反応 SR を引き起こす対象 O のもつ傾性 D にスーパーヴィーンする対象 O のもつ原初的特性 PP

### Ⅳ 存在依存関係主義理論 (Existential Dependence Relationalist Theory = EDRT) に関する定式

(1) 存在依存関係主義理論にもとづく色彩の定義 (DCEDRT=Definition of Color based on the Existential Dependence Relationalist Theory)

【DCEDRT】色彩 C = df 色彩知覚条件 PC のもとで色彩知覚システム S を具えた主体に対して色彩 C と直接的に関連づけられる (たとえば「C に見える」、「C に感じられる」) ような感覚反応 SR を引き起こす対象 O のもつ関係的特性 RP に厳格に存在依存する対象 O のもつ原初的特性 PP

(2) DCEDRT にもとづく赤の定義 (DREDRT=Definition of Red based on the Existential Dependence Relationalist Theory)